

本市の文化芸術政策の現状と方向性

資料 1

東京オリンピック
パラリンピック

文化庁の京都移転

大阪・関西万博

文化と経済の好循環

KYOTO STEAM

artKYOTO

学生アートオークション

アート市場活性化事業

京都文学賞

京都映画賞（仮称）

...

都市間の文化交流

東アジア文化都市

グローバルアート市場への進出

創造都市ネットワーク日本

アーティストインレジデンス連携拠点事業

...

文化芸術による共生社会の実現

文化芸術を基軸とした
京都駅東南部エリアのまちづくり

京都市立芸術大学の
京都駅東部エリアへの移転

文化芸術による共生社会
実現に向けた基盤づくり事業

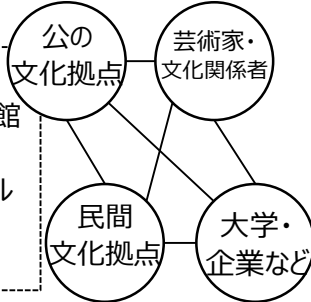
子どもたちが文化芸術に触れる
機会の創出

...

新型コロナの影響に対する 支援策の実施

芸術家・文化関係者・文化拠点 とのネットワークづくり

・ロームシアター京都
・京都市京セラ美術館
・京都芸術センター
・京都コンサートホール
・京都市交響楽団
・京都市動物園 ...



未来を創る京都文化遺産の継承

京都文化遺産の価値を
未来に伝える取組の推進

文化財の多様な価値を生かした
「保存と活用の好循環」の創出

文化遺産を大切にしまちづくりの推進

...

ウィズコロナからアフターコロナへ文化政策のパラダイムシフト

【持続可能な文化芸術政策】

本市の主要な文化芸術事業等について

文化庁の京都への全面的移転方針の決定

文化庁

- ▶平成28年3月 京都への全面的な移転を決定
- ▶平成29年4月 文化庁地域文化創生本部の創設
- ▶令和2年6月 新庁舎整備工期の延伸に伴い移転時期を令和4年8月以降に変更



新庁舎の完成イメージ

京都市

- ▶平成29年4月 「文化首都・京都」推進本部の設置，新・文化庁の機能強化との連携事業を新たに実施

「文化首都・京都」推進本部の設置

文化庁の京都への全面的移転を見据え，「文化を基軸とした市政運営」を展開するため，3つの方針を策定し，全庁を挙げて重点的に取り組んでいる。

新たな経済的価値の創出

地域共生社会の実現

都市間文化交流の
更なる発展

設置目的・趣旨

文化による社会の活性化や地方創生，国際交流への貢献を目指し，文化を基軸とした施策の融合及び文化政策の更なる推進

29年
4月26日
設置

＜本部長＞
＜副本部長＞
＜本部員＞

構成員

門川市長
岡田副市長，村上副市長，鈴木副市長
すべての局，区等の長及び関連施策を
所管する局長級職員

新・文化庁の機能強化との連携事業

新・文化庁の機能強化の方針を踏まえ、連携を図りながら、京都が「文化芸術資源を活用した地方創生のモデル」となり、文化芸術都市・京都の都市格をより一層高めることを目指します。

アート市場活性化事業

芸術家が創作活動を持続する上で必要な「制作・発表・販売」の3要素のうち、「販売」の要素に着目し、市内のギャラリストの育成やギャラリーの集積に向けた支援を行い、アート市場の拡大を目指すとともに、若手芸術家の創作環境向上やアート市場を担う人材の育成など京都における持続可能なアートの発展につなげる。

【倉庫兼ビューイングルームの検討】

アート関係者のヒアリングを通じて、倉庫に必要な機能・設備（空調、セキュリティ等）、サイズ、立地の検討を行い、初期投資・運営経費の算出を行う。

土地、建物については、民間企業等の遊休資産の活用を検討する。

伝統芸能文化創生プロジェクト

本市の伝統芸能の活性化を図るとともに、文化庁とも連携し、全国の関係機関とのネットワークを構築。全国を対象とした相談窓口を開設し、復元・活性化共同プロジェクトを推進することで、日本の伝統芸能文化の振興を目指す。



経済



生活文化



文化芸術



産業／学術



福祉

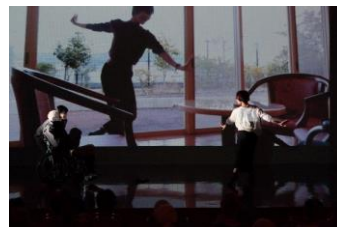
“京都をつなぐ無形文化遺産”事業

京都の暮らしの中で育まれ、根付いてきた暮らしの文化（生活文化）を次世代へ継承するため、文化（「京の食文化」「京・花街の文化」「京の地蔵盆」「京のきもの文化」「京の菓子文化」「京の年中行事」）を子どもたちが体験できる普及啓発事業等を実施。



文化芸術による 共生社会実現に向けた基盤づくり事業

文化芸術による社会的課題、困難の緩和に向け、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談への対応など、文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくりに本格的に取り組む。



京都文化カプロジェクト2016-2020

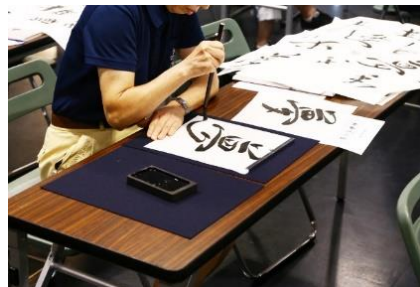
「京都文化カプロジェクト」は、東京2020オリンピック・パラリンピック等を契機として、日本の文化首都・京都を舞台に行われる文化と芸術の祭典です。京都から文化芸術を世界に発信するとともに、国内外の人々と交流・協働し、新たな創造の潮流を起こしていきたいと考えています。

平成29年度から令和元年度まで、「舞台芸術」「美術・工芸」「くらしの文化」の3分野について、年度ごとに1分野でリーディング事業を実施しました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大と東京オリ・パラの延期に伴い、大幅に事業を見直し、東京オリ・パラに向けた機運醸成及び継続事業を実施します。

令和元年度

・リーディング事業（くらしの文化）

- 「京都・くらしの文化×知恵産業展」の開催、「京都・くらしの文化まつり」の開催、お稽古教室の情報発信、国際交流茶会の開催等
- ・推進フォーラムの開催、イベントガイド（季刊）の発行、機関誌の発行、ポータルサイトの運営、beyond2020プログラム認証等



イベントガイド（2019年秋号、冬号）

令和元年9月3日～5日
令和元年度のリーディング事業
「京都・くらしの文化×知恵産業展」
ICOM京都大会の開催期間に合わせ、
京都市勧業館みやこめっせにて体験型
イベントやステージイベントを開催

令和2年度

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大と東京オリ・パラの延期に伴い、大幅に事業を見直すこととし、東京オリ・パラに合わせて実施予定だったメイン事業「京都文化芸術祭2020」等は令和3年度に延期し、東京オリ・パラに向けた機運醸成及び継続事業のみを実施しています。

世界遺産・二条城の保存・活用推進

世界遺産であり、京都を代表する文化観光施設である二条城。世界中から迎える来城者にその価値を正しく伝えるため、8言語でパンフレットを作成するなど、案内の充実を図っています。

また、MICEのユニークベニューとして活用する取組も進め、その収益を築城以来の本格修理工事（平成23年度～約20年間、総事業費：100億円超の規模）の財源に充て、文化と経済の好循環を生み出すなど、保存と活用のモデルとなることを目指しています。新型コロナウイルス感染症拡大のため、公開を休止していましたが、5月に再開し、感染症予防を徹底しながら運営しています。

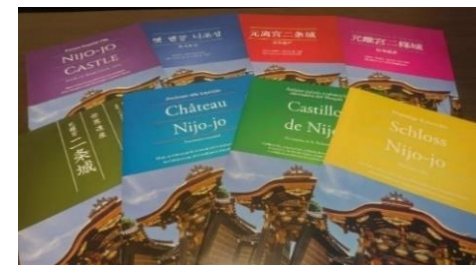
（取組の成果）

入城者数 令和元年度，205万人を記録

収益 平成24年度：約3.0億円 → 令和元年度：約7.8億円



アートアクアリウム城



8言語対応 二条城の紹介パンフレット

（主な活用事例）

年度	日時	事業名
令和元年度	5/18,5/19	二条城茶会
	8/31~9/3	展覧会「時を超える：美の基準」
	9/6~9/9	artKYOTO2019（美術市）
	9/21~10/6	「京都詩情」写真家 甲斐扶佐義 初回顧展
	11/22	Living History in 京都・二条城～生きた歴史体感プログラム
令和2年度	5/17,7/19	二条城オンラインツアー
	9/25~10/3	プレBIWAKO ビエンナーレ2020 森羅万象～COSMIC DANCE（ニューブランシュKYOTO2020同時開催プログラム）
	9/27,10/4,11,18	世界遺産 二条城ヨガ
	10/14~12/7	二条城まつり2020，アートアクアリウム城～京都・金魚の舞～
	12/3~6	artKYOTO2020～History in Action Festival～（舞踊劇，美術史体験ツアー）
	12/14~2/21	京都二条城イルミネージュ

KYOTO STEAM ―世界文化交流祭―

平成29年度から、文化庁補助事業を活用し、芸・産学公連携による、文化芸術都市・京都の持続的な発展を目指し、取組を進めています。本事業は、「アート×サイエンス・テクノロジー」をテーマに文化芸術の新たな可能性と価値を世界に問う、新しい形態の国際的な文化・芸術の祭典「KYOTO STEAM―世界文化交流祭―」（文化芸術事業）の開催を中心に、人材育成や国際交流・ネットワーク構築・情報発信に取り組んでいます。

※STEAMとは…Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（芸術）、Mathematics（数学）



主な取組

日程	会場	取組
平成31年 3月21日（木）～25日（月） 3月30日（土）～31日（日）	ロームシアター京都, 京都市動物園ほか 二条城御台所	KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 – prologue 〔国際アートコンペティション プレビュー, トークセッション ほか〕 〔AR技術を活用した能楽公演〕
令和2年3月 ※コロナウイルスの影響から、一部プログラムを延期 又は内容を変更しての実施等	京都市京セラ美術館, ロームシアター京都, 京都市動物園ほか	KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 – 2020 〔国際アートコンペティション スタートアップ展（※延期） アートカルティベートフォーラム（※後日録画配信） ダムタイプ『2020』（※後日会開催上映）等〕
令和2年, 10月31日（土）～12月6日（日） 令和3年3月	京都市京セラ美術館, ロームシアター京都, 京都市動物園 ほか	KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 – 2022prologue 〔国際アートコンペティション スタートアップ展 NAQUYO – 平安京の幻視宇宙 – 等〕

令和元年度に世界遺産・二条城を舞台とする美術市（アートフェア）を初開催。京都から世界のアートシーンを牽引するべく、31のギャラリー・美術商がそれぞれの審美眼に基づいたアート作品の展示及び販売を行いました。令和2年度は、新型コロナウイルス対策を徹底したうえで、プログラムを拡大し、美術市を京都国立博物館明治古都館、新たに実施する舞踊劇、美術史体験ツアーを二条城で開催します。伝統産業ミュージアムなどで関連イベントも実施します。

令和元年度

artKYOTO

■開催概要

- ・日程：令和元年9月6日～9月9日 ※6日は関係者のみの特別内覧会
- ・会場：元離宮二条城 二の丸御殿台所・御清所／東南隅櫓
- ・主催：artKYOTO 実行委員会
(京都市、一般社団法人アート東京、株式会社電通、株式会社電通ライブ)



■実績

- ・来場者数：9,633人（4日間合計）
- ・売上高：5.1億円
- ・出展ギャラリー：31軒（国内28軒、海外3軒）
- ・出品点数：約400点

令和2年度

artKYOTO
2020

■開催概要

- 日程：令和2年12月3日～12月6日 ※3日は関係者のみの特別内覧会
- 会場：美術市：京都国立博物館 明治古都館
舞踊劇、美術史体験ツアー：元離宮二条城 ほか
- 主催：artKYOTO 実行委員会
(京都市、一般社団法人アート東京、株式会社電通)



京都文学賞

平成30年度の「世界文化自由都市宣言」40周年を契機に、京都における文学の更なる振興とともに「文化都市・京都」の発信や、京都の歴史と幅広い魅力の再認識、都市格の向上に寄与するため、今年度「京都文学賞」を創設しました。「京都」を題材とする小説を「一般部門」「中高生部門」「海外部門」の3部門で、全国から作品を公募し、新人作家の発掘、育成を目指しています。

令和元年度

- ・募集期間：令和元年6月1日～9月30日
- ・応募件数：537件（一般部門464件、中高生部門64件、海外部門9件）
- ・受賞作

一般部門	○最優秀賞『もう森へは行かない』作者 松下 隆 ※新潮社から令和2年11月26日に刊行予定（書名を『羅城門に啼(な)く』に改題）
	○優秀賞『太秦——恋がたき』作者 藤田 芳康 ※河出書房新社から令和2年11月1日刊行（書名を『屋根の上のおばあちゃん』に改題）
中高生部門	○最優秀賞『マスクの秘密』作者 阪野 媛理
	○優秀賞『十六畳の宝箱』作者 高野 知宙
海外部門	○最優秀賞 受賞作 該当作なし 奨励作『線対称な家族』作者 翁 筱青 『Cat under the moon』作者 古賀ブラウズ オリビア水伽月

京都文学賞

Kyoto Literature Award



アートワーク：今村遼佑 ロゴ：高山燦

令和2年度

- ・募集期間：令和2年5月1日～9月14日
- ・応募件数：331件（一般部門 283件、中高生部門42件、海外部門6件）
- ・今後のスケジュール（予定）

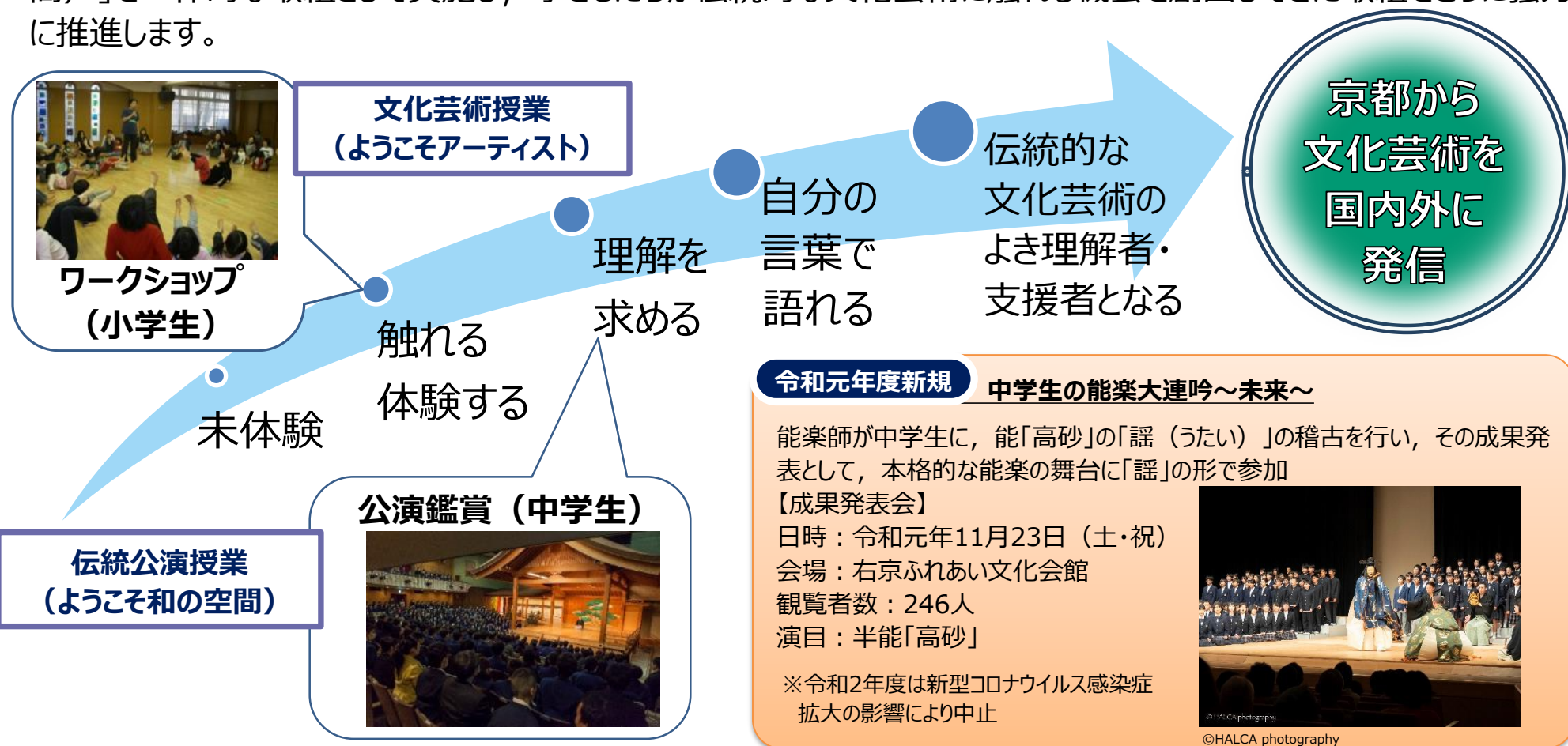
令和2年1月上旬 二次選考結果発表
令和2年3月下旬 受賞作の発表 表彰式・交流会



子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出

多くの子どもたちが優れた文化芸術に触れる機会を設けることにより、豊かな感性や人間性を育むとともに、伝統的な文化芸術をはじめとする京都の文化芸術を自分の言葉で国内外の方に伝え、発信できる青年層を育成することを目指しています。

一流の芸術家を小・中学校等に派遣し、ワークショップ等を実施する「文化芸術授業（ようこそアーティスト）」と、中学生を対象に能楽堂等本格的な文化芸術の舞台上で伝統芸能公演を鑑賞する「伝統公演授業（ようこそ和の空間）」を一体的な取組として実施し、子どもたちが伝統的な文化芸術に触れる機会を創出してきた取組をさらに強力に推進します。



参考：子どもを対象とした文化芸術に関する施策一覧

生活文化分野	伝統文化分野	伝統産業分野	劇場芸術分野	文化財分野
○能楽，日本舞踊，邦楽等の伝統芸能をはじめ，茶道，華道，書道や演劇，ダンスなどの一流のアーティストを学校等に講師として派遣し，実技指導やワークショップを行う。（幼，保，小，中）				○葵祭見学（幼） ○時代祭見学（小） ○ジュニア京都検定 ○「京都・観光文化検定試験3級」チャレンジ
○茶道，華道・いけばなの伝統文化体験（小，中） ○茶道を中心としたおもてなしの心を身に付ける伝統文化体験（高） ○土日等休業日における地域ボランティアを講師とした茶道，華道体験 ○学校給食に和食の献立を充実	○能，狂言，邦舞，邦楽の伝統芸能公演鑑賞（中） ○能楽鑑賞（高） ○放課後や長期休業期間における古典・伝統文化体験（小，中）	○西陣織，京鹿の子紋，京友禅・京小紋，京くみひもなどの伝統産業製作体験（小，中）	○親子音楽鑑賞会（幼） ○演劇鑑賞教室（小） ○小学生のための音楽鑑賞教室（小） ○文化芸術団体による実演芸術の巡回公演，学校での文化芸術鑑賞・体験	*赤字は，全市立校（園）対象事業（予定含む。）

まち・ひと・こころが織り成す京都遺産制度

京都市には、約三千の国宝，重要文化財，市指定登録文化財をはじめ，多くの貴重な有形・無形の文化遺産があります。

こうした京都の文化遺産をテーマ毎にまとめ，地域性，歴史性，物語性を持った集合体として認定する「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産（略称：「京都遺産」）」制度を創設し，現在，以下のテーマを認定しています。

平成28年度

北野・西陣でつづられ
広がる伝統文化

山紫水明の千年の都で
育まれた庭園文化

世代を越えて受け継がれる
火の信仰と祭り

平成29年度

明治の近代化への歩み

千年の都の水の文化

京町家とその暮らしの文化

平成30年度

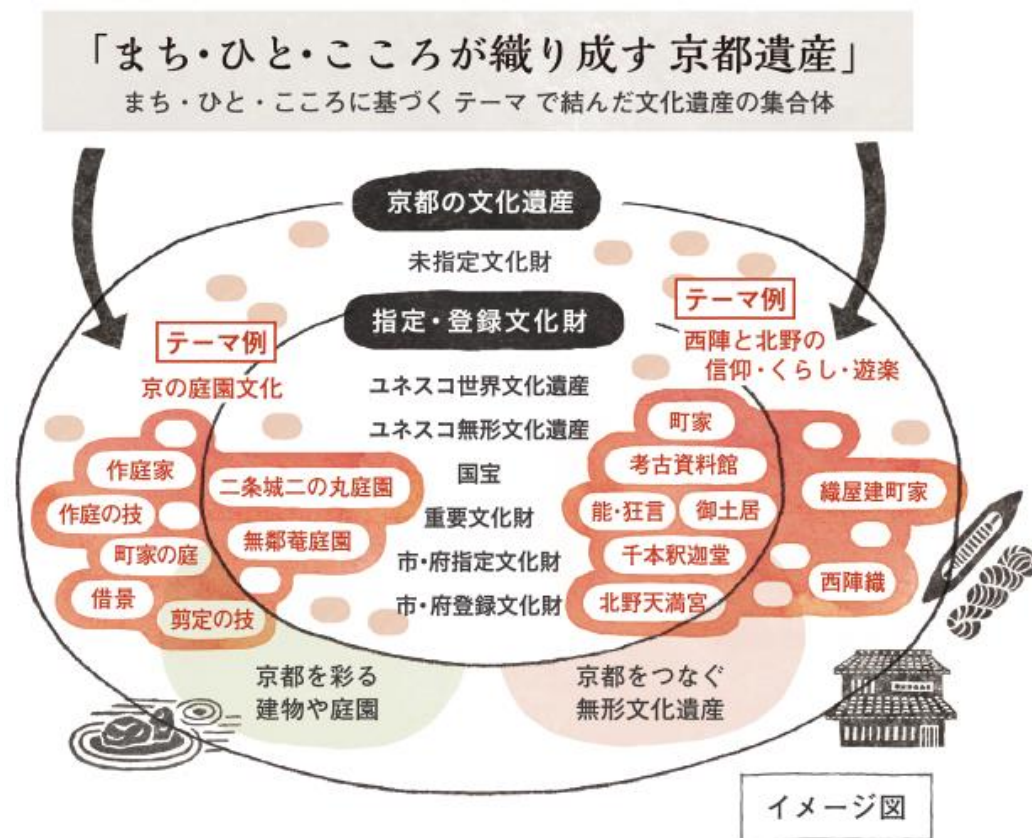
いまでも息づく平安王朝の雅

千年の都を育む山と緑

令和元年度

京の商いと祇園祭を
支えるまち

京と大阪をつなぐ
港まち・伏見



京都を彩る建物や庭園制度

京都市内には、京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園が、所有者のたゆまぬ努力により、世代を越えて継承されています。しかし、中には、その存在と魅力が十分に伝わっていないものや、維持・継承が危ぶまれているものもあります。そこで、京都の財産として残したい建物や庭園を募集し、“京都を彩る建物や庭園”としてリスト化することとしました。

この制度は、これらの建物や庭園を、市民ぐるみで残そうという気運を高め、様々な活用を進めることなどにより、維持・継承を図ろうというものです。

（“京都を彩る建物や庭園”の「認定」及び「選定」について（令和2年10月末時点））

- ・“京都を彩る建物や庭園”の「認定」…累計153件
- ・“京都を彩る建物や庭園”の「選定」…累計463件

京都をつなぐ無形文化遺産制度



世代を越えて暮らしの中で受け継がれてきた無形文化遺産の価値を再発見・再認識し、内外に魅力を発信するとともに、大切に引き継いでいこうという市民的気運を盛り上げるため、“京都をつなぐ無形文化遺産”制度を創設し、これまで、以下を選定しました。

- ・京の食文化
- ・京の地蔵盆
- ・京の菓子文化
- ・京・花街の文化
- ・京のきもの文化
- ・京の年中行事

京都駅東南部エリア活性化方針の推進

平成29年3月に策定した「京都駅東南部エリア活性化方針」に基づき、「文化芸術」と「若者」を基軸とした新たなまちづくりをすすめています。平成29年度から、こうしたまちづくりに向けた機運の醸成を図るためのワークショップやイベントを実施しています。また、文化芸術を活用し、社会的課題や困難の緩和につなげ、共生社会を実現するための取組として、多文化共生をテーマとしたモデル事業などを実施しています。

■主な取組（予定含む）

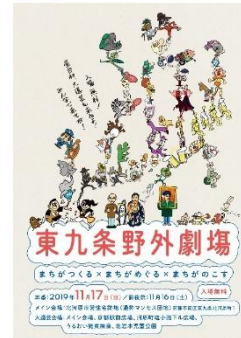
- 平成29年度 京都駅東南部エリア アート・トライアル 2017－2018（多文化共生ネットワークサロン他）
公演「はじめまして こんにちは、今私は誰ですか？」（故郷の家・京都）
- 平成30年度 ひかりの広場（北河原市営住宅跡地）
ノガミツ プロジェクト（東九条のぞみの園 他）
- 令和元年度 東九条野外劇場 まちがつくる×まちがめぐる×まちがのこす（北河原市営住宅跡地他）
東九条こどもご近所映画祭（THEATRE E9 KYOTO 他）
- 令和2年度 文化芸術施設の容積率の緩和等を定めた、京都駅周辺における都市計画の見直しを実施
文化芸術により社会課題の緩和を目指す取組に関する相談を受け付ける「Social Work / Art Conference」を新たにHAPSが設置する「HAPS HOUSE」（東九条地域）において開始



はじめまして こんにちは、今私は誰ですか？



ひかりの広場



東九条野外劇場



Social Work / Art Conference

京都市京セラ美術館 再整備

開館80周年の節目を迎えた平成25年度、建物や設備の著しい老朽化をはじめとした様々な課題を克服するとともに、50年後、100年後を見据えた将来像を明らかにするため、「京都市美術館将来構想」を策定しました。また、「将来構想」を具体化するべく、平成27年3月には、「京都市美術館再整備基本計画」を策定し、平成28年3月には、基本設計が完了しました。平成29年2月には、京セラ株式会社と55億円（50年間）のネーミングライツに関する契約を締結しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための開館延期を経て、「京都市京セラ美術館」として令和2年5月26日にリニューアルオープンし、感染症予防対策を徹底しながら運営しています。

■整備のコンセプト

- (1) 文化芸術都市・京都の新たなシンボルとなる美術館
- (2) 日本を代表する複合型美術館
- (3) 日本有数の集客力がある美術館

京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

■リニューアルオープン後の特徴

- (1) 現代アート展示室「東山キューブ」が誕生
- (2) 常設コレクション展示室（コレクションルーム）を新設
- (3) カフェ、ミュージアムショップ、広場、庭園などオープンスペース
- (4) ユニークヴェニューとして交流の場に



■令和2年度の主な実施事業

- ・コレクションルーム（5月26日～3月14日）
- ・杉本博司 瑠璃の浄土（5月26日～10月4日）
- ・京都の美術250年の夢 第1部～第3部 総集編
（前期 10月10日～11月8日、後期 11月10日～12月6日）
- ・ナイト・ウィズ・アート（10月3日）※ニューブランシュKYOTO2020同時開催プログラム



撮影：来田猛

京都市立芸術大学の移転整備

京都芸大のこれまでの永年の取組を継承しながらも、世界に冠たる芸術大学として一層飛躍するため、京都の玄関口であるJR京都駅東部エリアへキャンパスの移転整備を行います。同エリアに、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するとともに、京都全体の文化芸術によるまちづくりを一層推進します。令和5年度の移転を目指し、移転整備事業に取り組んでいます。

令和元年度

- 新キャンパスの実施設計の実施
- 移転整備プレ事業の実施
 - ・元崇仁小学校の教室を改装した崇仁ギャラリーにおいて、「教室のフィロソフィー」を7回開催
 - ・芸術資源研究センターのプロジェクト「崇仁小学校の記録と記憶を継承するプロジェクト」を実施し、元崇仁小学校を会場として「崇仁小学校展」を開催



令和2年度

- 新キャンパス関連工事の実施
■移転整備プレ事業の実施



高倉塩小路より



高瀬川をのぞむ



鴨川より

新たな「京都市動物園構想」の策定

令和元年度に「共汗でつくる新「京都市動物園構想」」が策定後10年の節目を迎えるに当たり、多様化する環境教育のニーズに対応するとともに、全国の動物園の中で希少動物の繁殖や研究・教育において、主導的な役割を果たしていくため、新しい構想を令和2年2月28日に策定しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休園していましたが、5月に再開し、感染症予防対策を徹底しながら運営しています。



いのちかがやく京都市動物園構想2020



■名称

「いのちかがやく京都市動物園構想2020 ～いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園となるために～」

■内容

1 京都市動物園理念

動物園の役割は時代とともに変化してきました。地球規模での環境破壊が進むなか、いま、現代における新たな動物園像が求められています。人間もまた地球に生きる動物の一員であることを踏まえ、京都市動物園は、ヒトを含む全ての動物のいのちと暮らしに敬意を持って向き合い、市民の皆様とともに動物園文化の成長と発展に寄与することを目指します。

2 行動指針

(1)種の保存 (2)動物福祉 (3)研究 (4)楽しく学ぶ (5)安心安全 (6)発信

3 5つの柱

- 柱1：生物多様性の保全に力強く貢献し、日本をリードする動物園
- 柱2：野生動物の行動や生態、福祉を研究する世界水準の動物園
- 柱3：文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園
- 柱4：多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園
- 柱5：「近くて楽しい動物園」の更なる発展

<令和2年度 構想に基づく新たな取組>

- ・世界水準の動物管理情報を提供する最大の非営利団体「Species360」への加入



京都市交響楽団の運営強化

京都市交響楽団は、昭和31年4月に日本で唯一の自治体直営のオーケストラとして発足し「市民に愛され、世界に誇れるオーケストラ」を目指して、半世紀超にわたり多彩な事業を実施してきました。平成26年には、サントリー音楽賞を受賞するなど、その高い演奏力は国内外から高い評価を得ています。

こうした中、令和2年4月、地方公務員法及び地方自治法の改正（令和2年4月施行）に伴い、楽団員が、京都市の特別職非常勤嘱託員から、（公財）京都市音楽芸術文化振興財団の職員となりました。

これに伴い、今後も京都市が楽団の設置に責任を持ち、京都市交響楽団を支援することを目的として、京都市交響楽団条例を制定（令和2年4月施行）し、京都市交響楽団の更なる発展を目指すための京都市交響楽団ビジョンを令和元年12月に策定しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を休止していましたが、7月から定期演奏会を行うなど、活動を再開しています。

■京都市交響楽団ビジョンキャッチフレーズ

共に響き合う、京響

■京都市交響楽団が「目指す姿」

◇市民にとっての価値を高めるために…

最上の音を奏で、人々と共に響き合い、身近な存在として、市民に愛され誇りとされるオーケストラ

◇京都市の都市政策として位置付けを確かなものとするために…

音楽の力で新たな価値を創造し、文化と人を育み、文化芸術都市・京都の象徴となるオーケストラ

◇楽団として高みを目指すために…

演奏力の更なる向上に邁進し、世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ

■「目指す姿」を実現するための5つの戦略

戦略1【世界水準の音楽で京都の文化芸術をリードします。】

戦略2【音楽を通じた京都のひと・まちづくりに取り組みます。】

戦略3【京響ファンの拡充、身近な関係づくりを進めます。】

戦略4【プロの音楽家集団として自覚ある組織風土を形成します。】

戦略5【楽団経営の基盤を整え、マネジメントを強化します。】

<令和2年度の新たな取組>

- ・クラウドファンディング「京響を未来に繋ぐ&新チャレンジ支援プロジェクト～皆様と共に響き合う京都市交響楽団～」の実施
- ・新たにYouTube, Instagramを開設し、演奏会動画や指揮者、楽団員からのメッセージ等を配信
- ・京響プレミアムのオンライン有料配信



©Tatsuo Sasaki